

令和5年度第2回検討会での主なご意見と対応

令和5年度第2回検討会での主なご意見と対応(1/2)

ご意見の観点	調査・検討方針に対する主なご意見(議事概要から抜粋)	対応
GHG排出量の精緻化・排出削減方策の検討について	リサイクルし易いものを海外から持ってきて再生プラスチック利用率を達成し、国内で発生したリサイクルし難いものは燃やすということでは意味がない。	ご指摘の点を、今後のGHG排出量削減方策検討において留意。
	削減対策を行い排出係数の更新が図られたものを社会として認証する必要があるかについては、影響の大きいファクターについてはやっていく必要があると思うが、それをどうシステムで行うか、検討が必要である。	
再利用可能部品のGHG排出量・削減効果の試算方法について	フロントドアASSYの排出削減効果の算定結果について、今後算定結果の妥当性の検証は行ってもらいたい、自動車のASR全体のCO2排出量で見たときにどれくらいの効果になるかについても、一定の整理が必要だと思う。次回の検討会では一歩踏み込んで、自動車リサイクル全体のCO2の削減効果を整理頂けるとよい。	資料3で分析結果をご報告。
	「控除」という言葉を使わず「排出削減」に統一されているが、どういう用語をどういう文脈で使っているか、引き続き調査し、最終版で確定するような手順でやってもらいたい。	国内外の既往文献での用語使用状況を踏まえ、「排出削減」で統一する方針。
GHG排出実態や排出量試算結果の妥当性について	専門分野の方々からすると不自然なところはいくつかある。全体的にピアレビューが必要であり、学識者や専門分野の委員の方々のチェックの機会を作らなければならないと思っている。事務局に一任するのではなく、検討会として関連するところはレビューを行うようにしたい。	試算の前提条件や試算方法について、ピアレビューを実施予定。
	レビューの仕切りを誰がやるかについては、まず事務局として算定システム全体を第1検証、第2検証という形で誰に検証してもらいたいのか具体的に抽出し、次に委託者である環境省としてはどう考えるかを考慮する、そして検討会における専門家の委員が合議的に進めていくというやり方になると思う。	
	ASR再資源化のGHG排出量について、ヒアリング結果なのでデータ公開は難しいかもしれないが、CO2の排出係数や消費電力の換算係数など、公開できるものは公開していただいた方が妥当性の確認がしやすいので、可能な範囲でお願いしたい。エネルギー起源で計上した燃料の種類などは、項目のリストアップがあると確認しやすい。	ご指摘の点も踏まえ、資料3(別紙)の形でピアレビュー資料を作成。

令和5年度第2回検討会での主なご意見と対応(2/2)

ご意見の観点	調査・検討方針に対する主なご意見(議事概要から抜粋)	対応
事前選別処理品目について	解体業者で事前選別処理品目として発炎筒を取り外しているが、外装容器の取り外しが推奨されるのであれば、解体段階で外装容器を外すことの定義や提案が必要ではないか。解体段階で外装容器を外すことにより発火の危険が増すのであれば検討が必要だが、発炎筒の処理施設でこれほど外装容器が回収されるということであれば、まずは解体業者において外装容器も回収するという定義が必要だと思う。 取り外されなかった発炎筒の危険性についても本検討会資料のまとめでも触れてほしい。全国的にも発炎筒が原因と思われる火災がたくさん起こっていると思う。発炎筒の危険の除去も含めて取りまとめて発信することで、容器の素材であるポリエチレン(PE)の回収の面でもより効果が出ると思う。	資料3にて、事前選別処理品目の本年度調査まとめにおいて言及。
資源回収インセンティブ制度におけるGHG排出量について	今後GHG評価にあたって具体的にどういうアプリ等を構築するか、原単位の確からしさをどのように検証するかが重要なプロセスになっていると思う。 議論全体を俯瞰しひとりで言える人がいない状況なので、GHG評価に関してコンソーシアムが立ち上がったときにどうやり取りするか、JARSとの接続をどうするか、といったことが事後対応になるのではと危惧している。誰がどう旗を振るのかを、次回の検討会までに事務局で整理してきてほしいと思っている。 資源回収インセンティブ制度の議論を別途行っているが、これまで中間とりまとめであった制度のガイドラインについて、今後、最終的な取りまとめが発行されると思う。それとタイミングや内容をリンクさせた方がよい。読む側も表現が異なると混乱するので、資源回収インセンティブ制度の動きをよく見ながら書いた方がよい。 算定モデルは将来的にウラノス・エコシステムのプラットフォームに載せると思うが、データフォーマットがどうなるかを見ながら算定モデルを設定していかないと、世の中のデータフォーマットの動きと乖離するので、注意したほうが良いと思う。 GHG関係のデータに関しては、データフォーマットが分からなければ、比較的オープンエンドな形にして、どんなシステムにもうまく入るよう、算定モデルを作り込み過ぎないといったことに気を付けると良い。次回までに全体像をある程度交通整理した資料を作ってもらえると良いと思う。	資料4で、制度開始に向けたスケジュールも踏まえた、今後の検討の進め方イメージをご説明。その際、いただいたご意見の観点は、資料中に反映。